

「被災から生活を立て直すためのシンポジウム」

開催要項

1 趣旨

豪雨・地震など、災害のたびに繰り返される課題に加えて、社会状況や環境の変化に伴う新たな課題も顕在化しています。

特に令和6年能登半島地震の対応に係る有識者会議では、支援者の迅速な派遣や被災した福祉避難所での要配慮者の受入れ、多様な主体の連携等による支援体制の強化を進めていくこと等が課題とされております。

そこで、被災者の生活再建支援と連携のきっかけとするため、広く関係者が集いシンポジウムを開催します。

2 主催

社会福祉法人山口県社会福祉協議会

3 日時

令和8年2月10日（火）14：00～16：30

4 会場

山口県健康づくりセンター 2階多目的ホール
山口市吉敷下東三丁目1番1号

5 日程・内容

時間	内容
13：00	開場 展示開始
13：30	受付開始
14：00	開会あいさつ
14：05	シンポジウム「被災から生活を立て直すために」 パネリスト ・堀井秀知氏 弁護士・防災士 ・森脇俊二氏 （社福）氷見市社会福祉協議会 事務局次長 ・坂本京子氏 （一社）レベルフリー 代表 コーディネーター 園崎秀治氏 OfficeSONOZAKI 代表
16：00	交流会（随時解散） 参加者同士の自由な情報交換
16：30	閉会

※進行により時間は多少前後することがあります。

(3) 展示（予定）

- 13:00から会場内に体験・確認できる展示ブースを設けます。
- ・段ボールベッド（各市町の避難所に配備してあるものと同じもの）
 - ・非常食
 - ・非常用自動パック式簡易トイレ
 - ・災害体験VR（地震・津波・風水害） 等

6 対象者

- ・市町社会福祉協議会職員
- ・災害ボランティア、災害NPO、市民活動支援センター等NPO支援団体
- ・介護支援専門員、相談支援専門員等の福祉相談支援専門職
- ・保健医療関係者
- ・災害時の生活再建に取り組む司法関係者、企業関係者
- ・県・市の防災部局、保健医療部局
- ・テーマに関心のある方

7 参加費

無料

8 定員

200名

9 申込み方法

令和8年1月30日（金）までに、参加申込書をFAXにより本会事務局へお送りいただくか、下記申込フォームからお申込みください。受講決定の通知は行いませんが、定員を超過した場合はお断りの連絡をさせていただきます。

（申込フォーム）<https://forms.office.com/r/YJir6R9aWJ>



10 個人情報の取扱い

申込フォームに記載された個人情報は、シンポジウムの運営管理のみに使用します。
参加者名簿の配布は行いません。

11 その他

- （1）自然災害等のやむを得ない事由によりシンポジウムを開催できない場合は、2月9日（月）の午後3時までにHP（<https://www.yamaguchikensyakyo.jp/>）に記載しますので、前日に必ず確認してください。
- （2）発熱や体調が悪い場合は、参加を控えてください。

12 その他

事務局（申込先、問合せ先）

山口県社会福祉協議会 総務企画部 災害福祉支援センター

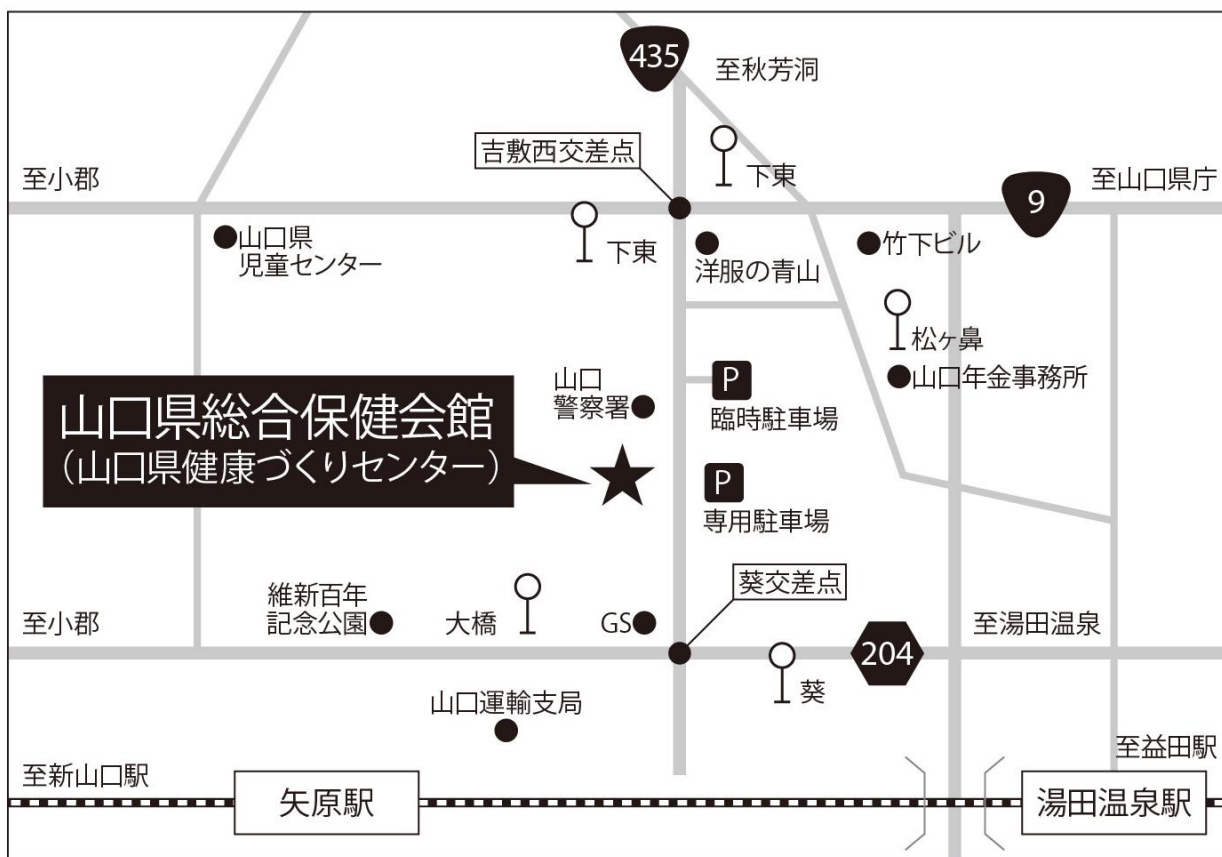
担当：光安、石原

〒753-0072 山口市大手町 9-6（山口県社会福社会館内）

TEL (083) 924-2830 FAX (083) 924-2792

E-mail : s-center@yg-you-i-net.or.jp

13 会場図



<パネリスト紹介>



ほりい ひでとも
弁護士・防災士 **堀井 秀知 氏**

所属学会 日本災害復興学会

社会活動 日弁連災害復興支援委員会副委員長

徳島弁護士会災害対策委員会委員長

(一社)さいわい 理事、

徳島被災者支援プラットフォーム(TPF) 理事

阪神淡路大震災での被災をきっかけに、社会に貢献する活動がしたい

との思いを募らせ、弁護士志望がより一層高まった。徳島の防災力強化にも尽力しようと、防災士の資格を取得。自治体などの依頼を受け、被災後に抱える法律問題をテーマにした講演を行っている。また、認知症患者など判断能力が不十分な人の財産管理や公的手続きを行う成年後見業務にも積極的に携わる。

もりわき しゅんじ

(社福)氷見市社会福祉協議会 事務局次長 **森脇 俊二 氏**

広島県出身。平成26年度から事務局次長として現在に至る。

福祉の総合相談支援窓口である「ふくし相談サポートセンター」で主任相談支援員として生活困窮者支援に携わり、地域共生社会の実現の一つとなる、「氷見市におけるセーフティネット構想」企画及び第3次氷見市地域福祉計画後期計画策定を担当。



さかもと きょうこ

(一社)レベルフリー 代表 **坂本 京子 氏**

気象予報士、防災士

防災は特別なことではなく、日々の暮らしの中にひっそりと息づいているもの。普段のつながりが災害時の声かけや避難所の運営につながる。

避難所は多種多様な人が集まる小さな社会。食物アレルギー、障害、ペット、外国人など事情を抱えた小さな声に耳を傾け寄り添う「やさしい避難所」について、平時から取り組んでいる。



<コーディネーター紹介>

そのざき しゅうじ

園崎 秀治 氏 Office SONOZAKI 代表

全国社会福祉協議会に入職後、ボランティアセンターの災害担当として、災害発生時に先遣として現地入りし、全国段階での支援の要否確認や災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)による災害ボランティアセンターの運営を支援する支援者派遣の調整を担う。

2021年、全国各地の防災・減災活動支援、被災地支援に貢献すべく、独立。

